

2012年3月期第3四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2012年3月期第3四半期の業績について】

Q：金融 IT ソリューションセグメントで証券業向けの大型プロジェクトが動いている割には利益率が低い理由は何ですか？

A：金融 IT ソリューションセグメント全体で見ると売上高は前年同期比でそれほど伸びていないため、稼働率の向上効果は限定的。当該セグメントの売上高のさらなる積み上げがあれば、稼働率の向上効果がより表れてくることも想定されるが、金融業顧客のコスト意識は依然として高く、過度に期待することはできない。

Q：産業 IT ソリューションセグメントの営業利益率の低下要因は何ですか？

A：主に以下の3つの要因で約10億円の影響。

- ①事業拡大のための営業活動の増加
- ②新規分野・新規顧客のシステム開発案件で、当初は低マージンになるケースがある
- ③一部のプロジェクトで発生した追加コスト

Q：上記3つの要因の、それぞれの金額面での内訳はどの程度ですか？また、第4半期以降への影響は？

A：3つの要因はそれぞれ同程度の影響。第4四半期以降はこのような規模で発生するとは見ていない。

Q：第1四半期に戦略的コストが発生した案件とは別のものですか？また、今後の追加コスト計上の可能性は？

A：ご指摘の案件と関連しているものも一部含んでいる。現時点で見込めるコストはすべて見込んであるつもりであり、不測の事態にならないようにしっかりとしたマネジメントをしていきたい。

Q：新規案件獲得の状況は？

A：活動の成果は出てきている。しかし、産業分野で勢いのある成長をしていくためには一層の営業努力が必要であると考えている。

Q：オフショアの活用率が上がっているとのことだが、どのセグメントでの活用が拡大している？

A：直近の活用率上昇は金融 IT ソリューションで増加している。

Q：コンサルティングサービスで増えている案件はどのようなものですか？SIに繋がるものは増えてきている？

A：案件としては、顧客の経営戦略策定や官公庁向けの案件など。また、業務コンサルでも順調に伸びている。その他にも、顧客のシステム開発プロジェクトを支援するようなコンサルティングも増

・本資料は、2012年3月期第3四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします

えている。

【2012年3月期の見通しについて】

Q：証券業向けの通期売上予想を10億円引き上げた要因は？

A：証券主要顧客向けの大型プロジェクトで、当社が対応できると考えていた今期の業務規模が従来
の見通しよりも増えたことなどを反映し、売上高見通しをアップデートした。

Q：営業利益で10億円という修正幅を考えると、特に修正する必要がないようにも思えるが、何か
メッセージはあるか？

A：その時点で最も確からしい見通しを説明できればと考えている。

また今回、法人税率変更の影響を踏まえた修正があったので、それに合わせて営業利益も見直した
面もある。

【来期の業績見通しについて】

Q：来期の業績成長はどれくらいが可能？

A：中長期的な成長目標である7%成長のペースに少しでも早く戻りたいと考えているが、来期の事
業計画・予算の議論はこれからなので、現時点で説明できる具体的な数値はない。

Q：来期以降に業績拡大を期待する領域は？

A：コンサルティングは力強い状態が続くとみている。

証券業向けは主要顧客の大型案件への対応が続くと見込んでいる。保険業向けは業界再編への対
応などがあり、銀行業向けではネットバンキングなどの案件が期待される。

流通業向けは主要顧客の海外展開などをサポートしていきたい。加えて、一層の営業努力をしつ
つ、製造業向けの新規案件を獲得していきたい。

以上